
学校通信

令和8年7月1日発行



みどり野



7月号 三木市立口吉川小学校

シャワーを浴びる子どもたち

星に願いを～七夕に思うこと～

七夕の季節がやってきました。七夕では短冊に願い事を書いて星に祈るという風習があります。今年の七夕では、どんな願いを込めようかと、思案している人もいないでしょうか。

さて、FIFA ワールドカップで日本中が盛り上がっています。選手はもちろん、関係者やサポーターが1つになって戦い、応援する姿にはスポーツの偉大な力を感じます。残念ながらブラジルに敗れ、16強入りは叶いませんでしたが、優勝を目指して一生懸命に戦う姿は何よりも素晴らしいものでした。

そんな中、試合放送の解説で気になる表現がありました。日本に得点を許さない相手のプレーを評した言葉に、違和感を覚えたのです。日頃の子どもたちの姿とも重なり、言葉の使い方について改めて考える機会となりました。

子どもたちは日々豊かに自分の思いを表現しています。その感性からあふれ出す言葉に、感動したり感心させられたりすることが多い一方、名前の呼び方や苦しい場面で思わず出る言葉、いら立ちの表現など、穏やかで「和気藹々」とした口吉川小学校にも、気になる姿があります。

そんな時に大切なのは、「自分のよさを損なう言葉になっていないか」「誰かの心を傷つけていないか」という視点です。親しい仲だからこそその呼び方でも、無意識の圧力になることもあります。苦難やいら立ちで出るマイナスの言葉が自分や周囲の心を傷つけることもあります。

表現は自由です。今、私も学校通信という場で思いを言葉にしていますが、読み手が不快な思いをしないよう心を配りながら綴っています。子どもたちにも、豊かな表現を活かしつつ、いつでもどこでも誰にとっても優しい言葉を身につけてほしいと願うものです。

折しも七夕が近づきました。子どもたちが、自分や他者を思いやる心をさらに育ててくれるよう、七夕の星に祈ります。7月も変わらぬご支援・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

三木市立口吉川小学校長 山崎 淑



1年生と4年生の
ブラッシング指導



6月29日の児童集会
・7月の生活目標について
・みんな遊び「だるまさんがころんだ」

